tococcineae. Vicnačnik prisnovodnich vodorostej Ukrainskoi RSR. **5**, 437 p. Kiev. Legnerová, J., 1965. The genera *Ankistrodesmus* Corda and *Raphidium* Kützing and their position in the family Ankistrodesmaceae. Preslia, **37**: 1–8. Pascher, A., 1915. Einzellige Chlorophyceangattungen unsicher Stellung. in Süsswasser-Flora Deutschland, Österreichs und der Schweiz. **5**: Jena. Prescott, G. W., 1951. Algae from the western great lakes area. 977 p. Iowa. Starr, R. C., 1955. A comparative study of *Chlorococcum* Meneghini and other spherical, zoospore-producing genera of the Chlorococcales. 111 p. Indiana. Watanabe, S., 1977. The genus *Chlorella* (Chlorococcales) from Japanese soils. Journ. Jap. Bot. **52**: 97–106, 129–136, 169–178.

*　　*　　*　　*

京都府南部の八幡町に流れる淀川の河川敷の湿った土壌と，京都大学構内の土壌から，*Monoraphidium braunii*（緑藻，クロロコックム目，オオキスチス科）が分離された。また鳥取大学砂丘研究所の敷地内にある海岸砂丘から，*M. braunii* に近似する緑藻を得た。ピレノイドをとりまくデンプン粒がより大きく，しかも密に配列されていること，自生胞子の母細胞が細胞の軸に平行に割れること，寒天上で古くなっても藻塊は変色しないこと，などの特徴により，この緑藻は *M. braunii* の新変種 var. **viridis** として記載された。

クロロコックム目ではピレノイドの有無が属を分類する形質の一つに考えられているが，従来 *Monoraphidium* 属にはピレノイドを持つ種も持たない種も含められてきた。*Monoraphidium* 属はピレノイドを持たないと特徴づけるのが適当で，*M. braunii* はこの属から除外すべきと考えられる。しかしながら，*M. braunii* をどの属に含めるかはオオキスチス科の数属の今後の比較研究を待たねばならないと思われるので，本論文では今回分離した藻類を *Monoraphidium* 属の一員として記述した。

□山田宗睦：**花の文化史** pp. 290，読売新聞社，（昭和52年7月）¥2500。この本については私ははじめ私の学説が引用されているのにおどろいた。そして著者の意図の，他の人の文化史に比べてひどく高いのに再びおどろいたのである。それは雑誌「グラフィケーション」に毎月連載されたが，数年を経て一冊となって出版された。大体50種ほどの草木，樹木をえらび，それに関係した問題を扱っている。道の思想史，花の文化史，水の精神史を構想した中での一部作として出版されたものであるだけに，植物の語源を扱うについても，深くそのもとにまでつっこみ論じている。私はこの文をよみいろいろと啓発されたが，語源を扱う著書として一つの門をなすものといえよう。

（前川文夫）